

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801727		
法人名	メディカル・ケア・サービス 九州株式会社		
事業所名	愛の家 グループホーム 笠松 (山笠ユニット)		
所在地	〒812-0067 福岡県福岡市東区笠松新町3番3号	092-626-8030	
自己評価作成日	平成27年12月27日	評価結果確定日	平成28年02月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家の運営理念である心を込めたサービスの提供、個別支援、地域との共生をもとに、ホームとして、利用者様のしたいことや夢を叶えるグループホームであり続けるため「自由と楽しみを提供する」「食で利用者様を笑顔にする」という理念を掲げ、利用者様を主体に毎日、笑顔の溢れるホームを作り続けている。日常生活では、利用者様がそれぞれ役割を持って生活し、職員と共にホームの生活を支えている。裏庭には、大きな芝生の庭があり花づくりや野菜づくりを行い、季節を感じながら毎日のように昔ながらの井戸端会議が繰り広げられている。地域とのお付き合いも良好で地域の祭事や文化祭などへ毎年出掛け、地域の方々が気軽に立ち寄れるよう子供110番や介護相談会、地域高齢者への各種教室を開催している。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiqokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaiqokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成28年01月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に運営理念の唱和を行っている。運営理念の意味(目的)について全体会議にて説明、全職員は理解し、共有している。また、法人理念に基づき、クレドを作成、職員は身に付け、浸透を図っている。更に各ユニットの目標を掲げ、共有し、それに基づいたケアを行っている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として「子ども110番の家」として登録、その他、地域の交流会(BBQ、文化祭など)への参加や小学校の運動会へ応援、ホーム内の行事へ参加していただくなど利用者様と一緒に交流を図り、地域との繋がりを持ちながら生活していけるよう支援している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	集会所を地域の方の会議や憩いの場として開放、町内会長や民生委員の協力のもと、介護相談会や折り紙教室などの開催している。本年度、認知症サポーターキャラバンメイト講座を受講し、地域の人々に今後更に認知症の理解が広がるよう努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を実施、ご家族様や各関係機関からも多数参加して頂き、会議で出たご意見をもとに行事を開催したり、関係機関との連携を構築するなどしている。また、ご家族アンケートのアドバイスを頂き実施するなどサービスの向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは運営推進会議に出席して頂き、(不参加の場合は会議議事録を送付するなど)日ごろから事業所の実情やケアの取り組みを積極的に伝えている。また、介護相談会や地域交流への協力を依頼するなど協力関係を築いている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを整備し、定期的に研修会を行い、職員のこういった行動や言葉が繋がるか把握し、身体拘束について理解を深めている。ケアの中でも話し合いながら、身体拘束しないさせないを目指し取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを整備し、定期的に研修会を行っている。また、日々の業務の中で管理者からの指導だけでなく、職員同士注意し合うなど周知徹底出来ている。職員は入居者様に痣や外傷がないか身体状況の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修を行い成年後見制度、日常生活自立支援事業について活用できるよう理解を深めている。現在、入居中の2名の方が成年後見制度を利用されており必要に応じ、後見人になられている司法書士の方にも相談しながら支援できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、改定等の際は、十分な説明を行い利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、重要事項の読み合わせを行い、理解、納得を図り契約を締結している。また、解約の際も十分な説明を行っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご家族様へのアンケートを実施、その結果を公表し改善計画を立て実施している。また、運営推進会議を通してご家族が外部の方に意見や要望を表せる機会を確保したり、意見箱の設置や苦情相談窓口を設け、利用者、ご家族等の意見を反映させている。		
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロア会議・全体会議での意見交換や朝夕の申し送り時など、日頃より誰もが管理者に対して運営に関する意見や提案できる機会を設けている。また、個人的にも誰もが意見、提案しやすい信頼関係を築いている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に合わせたスキルアップ研修の提案や実施、また、職員一人ひとりに応じた係りや行事などの担当、個々の努力や実績を考慮し、正社員や役職への登用を行うなど、やりがいと向上心を持って働き続けることができるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用については、性別、年齢、経験年数などの差別なく行っている。希望休や有給休暇の使用希望になるべく応じて個々が望む社会参加や自己実現の時間確保に配慮している。		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内研修において人権教育の勉強会を行い、入居者のみならず、職員間やあらゆる方々の人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて新人研修、リーダー研修など定期的実施、法人外の研修については、申し送りノートにて全員に周知し、希望を募り、勤務調整を図るなど参加できるよう対応を行っている。また、日々のケアを通して、経験が長い職員が、日々OJTを行い、新人職員の教育に努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛の家グループ内での各研修会や事例研究発表会などを通じ、定期的に交流する機会を持っている。また、近隣の同業者とは相互訪問を行うなど交流を行っている。現在、東区内のGHと相互交流やサービスの質の向上を目指し、ネットワーク作りを構築中である。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様との面談する機会を設け、困っていること、不安に思うこと、要望等を聞き、十分な説明を行っている。場合によっては当ホーム見学や複数回の面談を行うなど、ご本人様との信頼関係の構築に努め、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談時に、困っていること、不安なこと、要望等をお聞きし、当ホームとして出来ることできないことの説明を行い、場合によっては複数回の面談を重ね、十分に納得して頂くことで、ご家族様の不安の解消に努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人様との面談を行い、必要とされている支援を見極め、ご本人様にとって最良と思われる支援を第一に考え、他サービス利用の紹介を行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員は、日常生活の中で掃除や洗濯、食事の準備や、片付け等を一緒に行い、一人一人が役割を持って毎日を共に暮らしている。また、その中で本人様がしたい事、希望を叶えられるよう、その実現に向け、共に考え、共に暮らすもの同士としての関係を築いている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様のホームでの生活状況や、本人様の要望、思いを随時ご家族様へ報告し、共に考え最良の提案をご本人様にしていくよう努めている。また、定期的に家族会や行事を行い、本人様とご家族の絆を大切にしながら共に本人様を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も馴染みの人との関係が途切れないよう、時にはご家族様の協力も得ながらご親族や、ご友人に気軽に訪問して頂けるよう働きかけを行っている。また、地域の運動会、お祭りなどに参加し馴染みのある場所への外出の支援も行っている。		
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、食事時の席の配置や家事への参加を行ったり、レクリエーションを通して、入居者同士が協力しながら生活を共にし、関わりを持ちながら支え合えるよう支援に努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご本人様、ご家族との関係を断ち切ることなく、面会や自宅訪問、お手紙や電話連絡を行い、相談や支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望、意向の聞き取りに限らず、生活の中での会話や行動から把握し、出来る限りその方の思いに添えるよう努めている。困難な場合は、ご家族と相談しながら本人本位に検討している。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様から聞き取りを行い、幼少期から現在に至るまでの生活環境、職歴、病歴、入所までの経過などのアセスメントを取り、記録し、把握している。入居後の新たな情報収集も記録し、支援に繋げている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル・食事・排泄・水分量など個人記録へ記入、心身の状態等も変化があれば個人記録・日誌・ケアプラン実施表に記入、全員が共有できるようにしている。また、毎日朝夕、申し送りを行い、些細な変化にも情報共有を行い一人ひとりの現状の把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様がより良く暮らせるために、本人様の希望、ご家族様の希望を踏まえ、主治医や看護師からの助言や指示などをもとにユニット会議やカンファレンスで話し合いを行い、現状に即した介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人別に処遇記録、日報に記載、職員間で情報を共有している。また、日々のケアから気づきや工夫などの意見を取り入れ実践に活かしている。ユニット会議では介護計画の実施記録の確認を行い、必要に応じ、介護計画の見直しもやっている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やその時々ニーズに応じ、職員の豊富な経験などから、事業所として一人ひとりに応じて既存のサービスに捉われず、柔軟な支援の提供に取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会活動への参加や小中学校の行事などの地域行事への参加の他、地域にあるお寺の住職さんによるお説法会、地域の氏神である八幡様への参拝など本人の心身の力を発揮しながら、豊かで楽しみのある暮らしを支援している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医の訪問診療をほぼ毎日っており、また、協力医としても契約を結び、急変時及び緊急時にも適切な医療を提供できる体制がある。本人及び家族等の希望のかかりつけ医と事業所は、よく話し合いを重ね連携をとり、病院受診になった際などは、ご家族様の希望される病院への受診の支援を行っている。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師とは医療連携体制の契約を結び、週2回の看護師訪問を始め、毎朝、利用者様の状態連絡票(通常のバイタル、特記事項を記入)をFAX連絡している。また、24時間オンコール体制を取り、主治医の指示のもと適切な医療を受けられる体制がある。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的に病院関係者と面談する機会を持ち、利用者様が入院した際、安心して治療できるように、また早期に退院できるように、個人の必要な情報を迅速に情報交換や相談を行うよう努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や終末期の在り方について、本人様、ご家族様の意向を聞き取りしている。また、本人様に終末期が近づいた時には、本人、家族、主治医及び各関係者や職員としっかりと話し合い、事業所のできることを十分に説明を行いながら、方針を共有し、各関係者とチームで支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故救急対応マニュアルを作成し、応急手当・初期対応の勉強会を研修時や消防訓練時に取り入れ実践力が身に付くように努めている。また経験の浅い職員には、基礎知識や対応について、随時、口頭で指示するなどの対応を行い、全職員に実践力が身に付くよう指導を行っている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施しており、あらゆる災害を想定した避難訓練を毎回、消防署立会いのもと、経験の浅い職員を中心に実施している。また近隣の方々や消防団、ご家族様にも消防訓練のお知らせを行ったり、避難所である公民館へも度々訪問し、地域との協力体制を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にプライバシー保護研修を実施している。この他、人格を尊重したケアの徹底などOJT、OFFJTの中で職員の意識を高め、常に一人ひとりの人格の尊重、誇りやプライバシーの確保を意識し、尊厳を持った対応を行っている。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりの性格を理解し、日常生活の中で、思いや希望をさせたり、自己決定できるような雰囲気作りや、環境作りに努め、うまく気持ちを引き出せるよう働きかけを行っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その方がその日をどう過ごしたいか、入居者様の自主性を尊重し、出来る限りその方の希望に添えるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服やお化粧、アクセサリ等、以前からお持ちの物で以前から行ってこられたように、その人らしいお洒落を楽しまれている。お手伝いが必要な方には好みの物を選択できるよう準備し、自己決定していただいている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように、嗜好調査票を作成し、対応している。誕生会などには、お好きなメニューを起用したり、2かに月1回は外食会を行い、日頃より豪華な食事の日を設けている。また、利用者と職員と一緒に食卓を囲み食事を行い、その人の能力や体調に応じて、準備や片づけも一緒に		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分量のチェック表に記入し、食事摂取量や水分量を把握している。食事については管理栄養士のメニューを基本として提供、また、一人ひとりの状態や、力、習慣に応じ、ノンアルコールビールでの晩酌や水分ゼリーでの水分補給などを行っている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、お一人おひとりに応じ、仕上げるの介助や義歯洗浄をおこなっている。必要時や希望の方には、歯科診療や歯科衛生士による口腔ケアを受けていただき、居宅療養管理指導などを受け、本人様に応じた支援を行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、お一人おひとりの排泄パターンを把握しパットやオムツの使用量軽減に努めている。また尿意を大切に排泄動作など、できる事は、ご自分で行って頂くことを基本ケアとし、自立に向けた支援を行っている。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では、野菜を多く、栄養バランスを考えながら、食物繊維が取れるメニューを提供したり、毎夕食の汁物に乳酸菌を使用し便秘予防に努めている。また毎日、体操したり、レクの時間に身体を動かしたり、適宜な運動を行い、乳製品での水分補給などにも取り組んでいる。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望時間、タイミングに合わせて、夕食後に入浴する等、出来る限り本人様の希望に添えるよう支援している。時には、馴染みの方と一緒に2人、3人と入浴されることもあり、入浴中、楽しいな会話が弾んでいることもある。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や心身の状況に合わせて、ソファでくつろがれたり、居室で休まれたり、ご希望に添って休息して頂いている。一人ひとりの生活習慣に応じ、快適で安心して眠れるよう室温、照明の調整等の環境作りに配慮している。また、晩酌の提供を行うなど一人ひとりに応じ安眠できるような支援を行っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、薬処方一覧表を用い服薬マニュアルに沿って服用して頂いている。また、一人ひとりが服用されている薬や効能、それに伴う副作用を薬情ファイルにて確認・理解し、症状に変化があれば主治医へ報告・相談している。処方変更時には様子観察を行い記録に残し、情報を共有している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、役割を持って生活して頂けるよう、その人の力に応じた家事への参加や、花の水やりや裁縫、糠漬けを作り皆で食すなどの支援を行っている。また、個別にサイクリングや買い物を行ったり、晩酌をするなどの楽しみや気分転換の支援を行っている。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、可能な限り、散歩や買い物へ行くなど、個別の支援を行っている。また、ご家族様には外泊や墓参りなどの外出支援を行って頂いたり、地域の方々には、運動会や懇親会などへも招待頂き、さまざまな方の支援を頂きながら特別な場所への外出支援を行っている。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの方針として、お金はホームでお預かりしているが、買い物や、外出時には、その方の希望や能力に応じて、財布を渡したり、お金をお渡しし、ご自分でお支払いしていただくなどの支援を行っている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいとの希望があれば、ホームの電話を使用し、かけていただいている。聞き取りが困難な方には、職員が仲介し、円滑にお話しが出来るよう支援している。手紙は必要な物品をご用意し、手紙のやり取りが出来るように支援している。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、お花や飾り、皆様が作成された貼り絵を貼ったりすることで、季節を感じていただけるように配慮している。室温や照明、音、換気に配慮し居心地の良く過ごせるように支援している。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のテーブル席やソファーでは、テレビを見られたり、談話をして過ごされたりと、自由に過ごされている。また、テラスやお庭のベンチでも、独りであったり、利用者同士でくつろぎながら、お花を眺めたり、外気に触れるなど思い思いに過ごされている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人や家族と相談しながら、本人が使い慣れた単筒や小物、仏壇や遺影など大切にしている物などをお持ち頂き、居室で居心地よく過ごせるよう支援している。また、本人様の趣味や嗜好に合わせて、居室でも自分らしい生活を送れるよう、随時、ご本人やご家族と相談しながら環境を整備している。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで車椅子での移動がしやすく、廊下には手すりを設置、車椅子も入るトイレにはマークを貼付する等、誰もが安全に自立した生活ができるよう配慮している。掃除用具などはわかりやすい場所に置き、いつでも使用できるように工夫している。		